

## IV-6 中国・四国

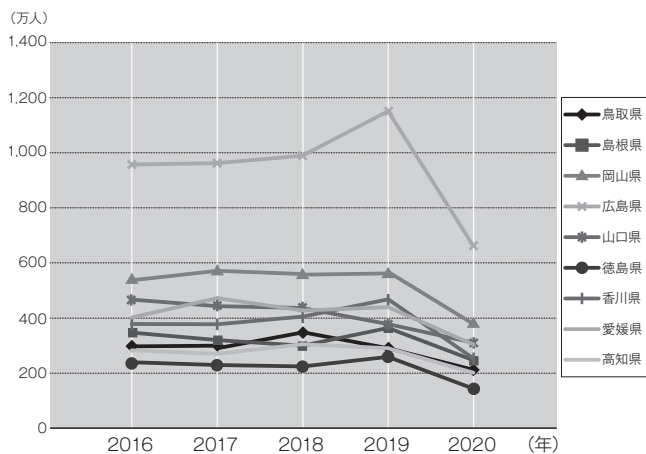
エリア全体で延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数ともに大幅減  
新型コロナウイルスに対応した取り組みが加速  
観光施設の新規オープンやリニューアルも多数

### (1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2020年1～12月の中国・四国全体の延べ宿泊者数は2,714万人泊となり、前年比で35.5%の減少であった。

延べ宿泊者数は全県で減少し、香川県(前年比45.7%減)、徳島県(同43.6%減)、広島県(同42.0%減)、岡山県(同33.3%減)、島根県(同32.7%減)、高知県(同32.4%減)、愛媛県(同31.6%減)、鳥取県(同26.6%減)、山口県(同17.3%減)であった。(図IV-6-1)。

図IV-6-1 延べ宿泊者数の推移(中国・四国)



(単位：万人泊)

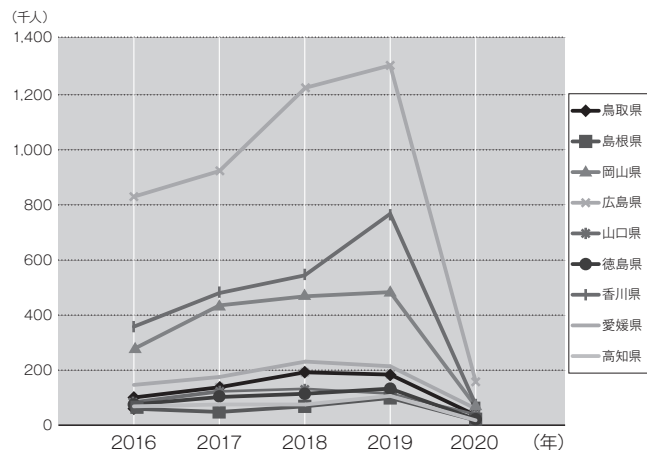
都道府県名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
鳥取県	299	299	356	289	212
島根県	347	319	298	364	245
岡山県	535	583	561	566	377
広島県	959	963	990	1,163	675
山口県	466	444	435	376	311
徳島県	238	230	222	257	145
香川県	378	376	405	466	253
愛媛県	404	470	425	439	300
高知県	282	271	301	290	196

資料：観光庁「令和2年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

2020年1～12月の中国・四国全体の外国人延べ宿泊者数は50万人泊となり、前年比で85.4%の減少であった。

外国人延べ宿泊者数は全県で減少し、香川県(前年比89.5%減)、島根県(同87.2%減)、広島県(同87.2%減)、徳島県(同85.0%減)、岡山県(同84.7%減)、高知県(同82.2%減)、鳥取県(同81.4%減)、愛媛県(同73.3%減)、山口県(同69.8%減)であった。(図IV-6-2)。

図IV-6-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中国・四国)



(単位：千人泊)

都道府県名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
鳥取県	100	141	195	185	34
島根県	58	48	73	104	13
岡山県	282	439	469	487	74
広島県	840	928	1,237	1,322	169
山口県	93	117	123	104	32
徳島県	69	103	116	134	20
香川県	358	482	546	772	81
愛媛県	147	179	230	216	58
高知県	75	75	79	95	17

資料：観光庁「令和2年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

### (2) 観光地の主な動向

#### ① 地方・都道府県レベル

##### ● JR西日本 長距離観光列車「銀河」運行開始

JR西日本は2020年9月11日に長距離観光列車「WEST EXPRESS 銀河」の運行を開始した。同社は、「JR西日本グループ中期経営計画 2022」において、鉄道事業の事業戦略として、地域との対話と連携を通じ、観光を軸とする西日本の各エリアの活性化に貢献することを掲げており、本事業はその一環として取り組むものである。列車名は、運行する西日本エリアを宇宙に、各エリアを魅力的な星として、それらを結ぶ列車という意味を込めて名付けられた。

同列車は関西と山陰・山陽を結ぶ特急列車で、京都・大阪～出雲市を結ぶ区間は2020年9月～11月の期間に夜行特急列車として、大阪～下関を結ぶ区間は2020年12月～2021年3月の期間に昼行特急列車として、それぞれ運行された。関西と山陰を結ぶ区間では京都府・大阪府・兵庫県・岡山県・鳥取県・島根県に、関西と山陽を結ぶ区間では大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・山口県に、それぞれ停車する。

車両は117系6両1編成で全車指定席の定員90名程度で、西日本の海や空を表現した「瑠璃紺色」の外観が特徴となっている。「多様性」「カジュアル」「くつろぎ」をキーワードとした

デザインコンセプトを基に、個室やフルフラットシート、コンパートメント、フリースペースなど、1両ごとに異なる座席タイプが配置されている。

一部停車駅や車内では、特産品の販売や伝統芸能披露などの各種おもてなしを実施したほか、一部運航日では車両の空いたスペースに沿線地域の特産品を積載し、貨客混載輸送の取り組みを試験的に行った。

沿線地域ではWEST EXPRESS 銀河とのタイアップ商品の企画販売や地域のPRイベント等が開催された。2020年10月には和歌山県と和歌山県紀南地方の7市町村がJR西日本に対し、紀南地方への運行を誘致する要望書を提出した。

#### ●鳥取県・島根県がオンラインツアーによる観光PRを実施

鳥取県は2021年1月～3月にかけて、鳥取県の観光や食を紹介するオンラインツアーをシンガポールおよび日本国内向けにそれぞれ実施した。

シンガポールに向けたオンラインツアーは、株式会社エイチ・アイ・エス(以下、H.I.S.)と連携して行われたもので、1月～3月にかけて計4回開催された。配信はH.I.S.シンガポール店舗のFacebookページ上で行われた。オンラインツアーでは映像や現地中継を交え県内観光地が紹介されたほか、シンガポールで開催する食のフェアのPRが行われた。食のフェアは「鳥取レストランフェア in シンガポール」と題し、シンガポールの高級レストラン「Takayama」と連携して、2021年2月中に紅ズワイガニ、松葉がにを中心とした鳥取県産食材を活用したコース料理の提供を行った。また、オンラインツアーの実施に合わせ、1月～3月にかけてH.I.S.シンガポール店舗でのカニのせんべい等の土産品を中心とした鳥取県産品の販売および鳥取県の観光PRを行った。

なお、鳥取県とH.I.S.は、東南アジア地域の訪日観光需要の獲得に向け連携して取り組んでいくことを目的に、2019年5月にインバウンド観光推進に関する協定を締結している。

また、3月にはシンガポールの現地旅行社「EU Holidays」と連携し、同社のFacebook上にてライブ配信でオンラインツアーを実施した。鳥取県観光大使である宮川光彩氏が進行役となり、鳥取県内の観光地である仁風閣と皆生温泉、鳥取砂丘の3カ所と中継を結んで魅力を紹介した。

日本国内に向けたオンラインツアーは、鳥取県と島根県が山陰海岸ジオパーク推進協議会および一般社団法人隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と連携し実施した。運営は委託先である「株式会社島ファクトリー」が担い、オンライン会議システムzoomを使用して行われた。オンラインツアーは「山陰海岸」と「隠岐」の2つのユネスコ世界ジオパークを巡るもので、参加者の自宅には事前に山陰海岸と隠岐の特産品や旅のしおりが届き、参加料は1グループあたり5,000円であった。

#### ●島根県立三瓶自然館サヒメルが新装オープン

大幅改修工事で2019年11月から休館していた自然史博物館「島根県立三瓶自然館サヒメル」が2020年6月にリニューアルオープンした。新型コロナウイルスの影響で当初予定の4月から1ヶ月半遅れのオープンとなった。島根県による事業費は約

2億1,500万円であった。

同館は国立公園三瓶山に位置し、豊かな島根の自然に生息する動植物をはじめ、大地の歴史に関する展示を行っており、天文台やプラネタリウムも併設している。三瓶山の噴火による10万年前からの地形変化を立体映像で解説する300インチの大型スクリーンや、剥製など動物展示の詳細な説明動画がスマートフォンで見られる拡張現実(AR)技術が採り入れられ、パネルの多言語化など展示内容の充実も図られた。

#### ●山口県が新モビリティサービス実証事業を開始

山口県は官民でつくる「新移動サービス官民推進協議会」を2020年5月に立ち上げた。同協議会はJR新山口駅北地区に位置する山口市産業交流拠点施設を核として、交流人口の更なる拡大や観光振興等につなげるため、AI等の新技術を活用した新たなモビリティサービス(MaaS)や、移動手段と多様なサービスを組み合わせた新たな付加価値を創出するビジネスモデルの構築に取り組む。協議会は山口県や山口市に加え、鉄道やバスといった公共交通事業者、宿泊、飲食業など19団体が構成された。

これに関連し、山口県と山口市は二次交通の利便性向上を目指し、既存の公共交通と最新技術を組み合わせた新しい移動サービスの実証実験を同年12月～2021年2月にかけて実施した。実証実験では移動サービスの予約などができるやまぐちMaaS用Webアプリ「ぶらやま」の運用や、観光客への超小型モビリティの貸し出し、タクシーツアー、シェアサイクル、デジタルチケット販売等が行われた。

#### ②広域・市町村レベル

##### ●鳥取県米子市であかりの社会実験

2021年3月、鳥取県米子市の皆生温泉街で海辺や公園などを照明で演出し、夜の散策を楽しむ社会実験「KAIKE AKARI PARK(カイケアカリパーク)」が実施された。

皆生温泉では、旅館経営者等で作る「皆生温泉まちづくり会議」が、今後も選ばれる温泉地の将来像として「皆生温泉まちづくりビジョン」を策定しており、この将来ビジョンの実現に向け、官民をあげて様々な取り組みを行なうこととしている。今回の社会実験は、このビジョンを具現化するために、「灯り」と「飲食」を切り口として、魅力的な空間づくりを目指し行われた。

宿泊事業者や米子市による「皆生温泉街歩き魅力増進事業実行委員会」が主催し、境港市の水木しげるロードや県外の温泉地・社寺仏閣などのライトアップを手掛ける照明デザイナー・長町志穂氏が演出を担当した。皆生海浜公園や海岸遊歩道があんどんや間接照明、スポットライトなどでライティングされたほか、皆生海浜公園や皆生グランドホテル天水の庭では、飲食物の販売が行われた。

##### ●『「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—』が日本遺産認定

岡山県高梁市・吹屋が『「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—』として2020年6月、文化庁により「日本遺

産」に認定された。日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援する事業である。

「ジャパンレッド」は、江戸中期以降に高梁市成羽町吹屋地区で盛んに生産されたベンガラと銅にまつわるエピソードがテーマとなっている。ベンガラは銅山で産出される硫化鉄鉱を原料とし、輪島塗や九谷焼といった工芸品のほか、全国の社寺の建築に用いられた。今回の認定では「わが国を代表する陶磁器や漆器の『赤』を『ジャパンレッド』と表現した興味深い物語」と評価された。

認定された日本遺産は、ベンガラ色に彩られた町並みが残る吹屋地区(国重要伝統的建造物群保存地区)をはじめ、ベンガラの製造販売で栄えた豪商・旧片山家住宅(国重要文化財)や吉岡銅山跡、地域に伝わる民俗芸能・備中神楽(国重要無形民俗文化財)など計22点の文化財で構成されている。

#### ●広島県廿日市市が宮島訪問税の導入を決定

2021年3月、廿日市市議会において、宮島を訪問者に対し1人1回100円を課税する「宮島訪問税」の条例が可決された。訪問税は、フェリーで来島する訪問者の運賃に上乗せして徴収する。ただし、島民や通勤・通学者、未就学児、修学旅行生などは対象外となっている。頻繁に来島する訪問者を対象に1人500円の年払い制も設ける。また、税収は島内のトイレの維持管理といった観光関連施設の整備に充てる方針を立てている。宮島口フェリー旅客ターミナルを自動改札にするなど省人化を進める。

宮島訪問税は地方税法第5条第3項に基づく法定外普通税で、廿日市市は2008年と2015年に検討委員会を設置し、導入を検討したが島民の反対などから断念した。同市は2019年に新たな検討委員会を設置し、2020年5月に素案をまとめた。条例の施行と徴収システムの導入完了は2023年頃となる見通しとなっている。

#### ●庄原観光推進機構(庄原DMO)が発足

2020年4月、広島県庄原市で一般社団法人庄原観光推進機構(庄原DMO)が発足した。庄原市観光協会を母体に、市からの出向者2人を加えた12人体制でスタートし、官民が連携して「稼ぐ観光地域づくり」を目指す。事務所は国営備北丘陵公園北入口一帯の中核施設である「里山の駅庄原ふらり」内に置いた。

庄原DMOは主な事業として「マーケティング・マネジメント事業」「プロモーション事業」「旅行事業」「地域商社事業」「古民家ステイズ事業」を据え、観光交流人口の拡大による地域経済の活性化やシビックプライドの醸成、庄原ブランドの確立、定住人口の増大による地域の持続的な発展を目指す。

#### ●生産者と交流するオンライン宇部ツアーを実施

宇部観光コンベンション協会などは山口県宇部市内各地を紹介するオンラインツアーを2020年8月と9月に開催した。オンラインツアーは同協会の新たな観光戦略として、東京都の

旅行会社あうたび合同会社と共同で実施したもので、新型コロナウイルスによる売り上げ減少などの影響を受けている事業者の支援にもつなげる狙いがある。

参加者には事前に特産品の詰め合わせ「応援セット」が自宅に届き、ツアー中に生産者と交流しながら味わうことができる。参加費は応援セットに含まれ、9,000円、7,000円、6,500円の3種類が設定されている。

#### ●「雪舟回廊」日本ガーデンツーリズム登録

2020年10月、山口市や防府市など県内外6市でつくる雪舟回廊協議会が作成した、庭園間交流連携促進計画「雪舟回廊」が、国土交通省の日本ガーデンツーリズムに登録された。日本ガーデンツーリズムとは、庭園文化の普及を図ることなどを目的に、庭園を通じた交流などの計画を登録する制度で、2019年度に創設されたものである。

雪舟回廊協議会は、室町時代の画僧・雪舟にゆかりのある山口市や防府市のほか、雪舟サミット構成市の島根県益田市、岡山県総社市と岡山県井原市、広島県三原市で構成され、「雪舟の作品に出会うことができる旅」をテーマに、雪舟が造ったとされる庭やゆかりの地など6市の9カ所を構成庭園としている。

#### ●徳島市の阿波おどり中止

2020年8月12～15日に予定されていた阿波おどりが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止となった。4日間全ての中止は戦後初めてとなっている。

#### ●香川ワーケーション協議会設立

2020年11月、「香川ワーケーション協議会」が設立された。同協議会は非営利の任意団体で、株式会社地方創生の代表取締役社長を代表役員として、幹事にJR四国、香川大学、香川県庁などの幹部が名を連ねた。ワーケーションによる地域経済への貢献や人々のワークライフバランスの向上、真の豊かさへの追及を設立趣旨に掲げた。

#### ●道後アートの交流拠点「ひみつジャナイ基地」開館

道後アートの交流拠点「ひみつジャナイ基地」が松山市道後湯月町に完成し、2020年6月に開館した。アートを通じ交流人口拡大を図る「ひみつジャナイ基地プロジェクト」の一環として設計コンペが実施され、応募者のアイデアを基に制作された。同プロジェクトは、東京芸術大美術学部長の日比野克彦氏が監修・メインアーティストを務めた。

基地は木造平屋約48平方メートル、総工費は約1,600万円となっており、木造平屋建てのあずまやのような外観で、内部は展示やワークショップなどに柔軟に活用できる半屋外空間のような土間が広がる。

#### ●四国中央市歴史考古博物館高原ミュージアム開館

2020年7月、愛媛県四国中央市歴史考古博物館高原ミュージアムが開館した。四国中央市の歴史・文化を学び発信する「歴史文化発信拠点施設」として、郷土資料館「かわのえ高原



ふるさと館」に「考古資料館」を統合し改修・増築した。

同館は鉄筋コンクリート一部鉄骨造の2階建て、延べ床面積2,075平方メートル、総事業費は約5億6,400万円で、展示棟と収蔵棟で構成され、資料約1万点を所蔵する。

弥生時代の同市上分西遺跡から出土した県内唯一の銅鐸や、江戸時代中後期から明治時代初期にかけての公用記録「川之江村役用記」など地域ゆかりの資料が展示されている。

#### ●愛媛県大洲市に分散型ホテル「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」と城泊「大洲城キャッスルステイ」開業

2020年7月、愛媛県大洲市やDMO、企業が連携して、分散型ホテル「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」と城泊「大洲城キャッスルステイ」が開業した。

「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」開業の背景として、大洲市では人口減少などに伴う空き家の増加が社会問題化していることがある。古民家は個人で維持管理することが難しいため、市が改修などで景観を保持し、観光振興につなげる取り組みを進めている。古民家の改修業務などはDMO「キタ・マネジメント」が担い、ホテルの運営は2018年から市と連携協定を結ぶ「パリューマネジメント」が行う。

ホテルは大洲城下エリアの宿泊棟3棟とレストラン棟1棟、おはなはん通り周辺エリアの宿泊棟3棟と宿泊兼宴会場1棟で構成されており、各棟に旧大洲藩主「加藤家」の歴代藩主の名前を付けている。2021年4月には、国登録有形文化財の旧加藤家住宅を改修した「MITI棟」をオープンした。分散型ホテルの付近では宿泊者による土産物の購入増加や、商店の新たな開業がみられているという。

「大洲城キャッスルステイ」は大洲城の木造復元天守に宿泊できる体験プランで、大洲市が所有する文化財観光施設を活用した官民連携事業として始まったものである。同市では2019年から「文化財観光施設を活用した歴史体験検討委員会」が組織され、大洲城と臥龍山荘の活用方法が検討されてきた。

同体験プランには城までの送迎や様々なアクティビティ、国の重要文化財に指定された建物での食事などが含まれる。城泊は1日1組限定で、価格設定は1泊1組100万円からとなり、年間の受け入れ上限数は30組を予定している。

#### ●高知のよさこい祭り中止

2020年8月9～12日に予定されていたよさこい祭りが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止となった。よさこい祭りは観光や宿泊、飲食、美容、土産物の生産・販売など関わる業種の裾野が広く、祭りを主催する「よさこい祭振興会」の調査によると、経済波及効果は98億2,700万円(2017年)に上る。

#### ●高知県内初となるジップラインが四万十市に開業

2020年6月、高知県内で初となる空中に張ったワイヤを滑車で滑って楽しむアトラクション「四万十川ジップライン」が、高岡郡四万十町の道の駅「四万十とおわ」にオープンした。四国では徳島県三好市の祖谷に続いて二例目となる。同町が総事業費約6,800万円で整備した。

スタート地点は道の駅対岸の「御成婚の森」で、水面からの高さは約25m、道の駅まで高低差約10m、距離約200メートルを滑空する。ワイヤは2本あり、一度に2人体験できる。新型コロナウイルスの影響で開業が遅れたものの、目標数を上回る利用者が来訪し、道の駅の売り上げを押し上げた。

#### ●高知県土佐清水市に海洋館「SATOUMI」がリニューアルオープン

2020年7月、高知県土佐清水市三崎の新足摺海洋館「SATOUMI(さとうみ)」がオープンした。高知県観光開発公社が運営する。

新足摺海洋館は老朽化で同年2月に閉館した旧館の隣接地に建設され、竜串湾に面した2階建て、延べ床面積は3,398平方メートルである。「竜串全体が自然の水族館」をコンセプトに、竜串湾の海底を再現した大水槽をはじめ、計70基の水槽が設置された。熱帯や温帯の魚のほか、ウミウシやサンゴなど地元の生き物を中心に350種1万5千点を展示している。入館者はオープン1カ月で旧館末期の1年分に当たる5万人を突破し、2020年度末には17万5,740人に達した。

(武智玖海人)